

※道雄さんの収入と支出は、「町の歳入・歳出」の2,000分の1で計算しています。

三男 道雄さんの家計簿 (下水道・農業集落排水事業)



町の実際の収入 (歳入)	執行額 (単位:千円)	構成比 (%)
下水道使用料	150,002	8.9
受益者負担金・分担金・国庫補助金	400,225	23.8
一般会計繰入金	547,176	32.6
下水道手数料・財産運用収入	17,739	1.1
預金利子・雑入		
繰越金	14,701	0.9
町債	549,000	32.7
合計	1,678,843	100

町の実際の支出 (歳出)	執行額 (単位:千円)	構成比 (%)
義務的経費		
人件費	63,749	3.8
公債費	602,204	36.1
投資的経費		
普通建設事業費	835,633	50.0
その他の経費		
物件費	150,678	9.0
維持補修費	12,281	0.7
補助費等	6,428	0.4
合計	1,670,973	100

収	支	4,100
収	支	7,870

車の購入等(下水道管きよの布設や下水処理施設の建設)と借金の返済を合わせると支出の86%を占めています。一郎さんからの援助と新たな借金で収支の均衡を図っています。

収入	(単位:円)
基本給	75,000
手当	200,100
親からの援助	273,600
雑収入	8,900
繰越金	7,400
新たな借金	274,500
合計	839,500

支出	(単位:円)
生活に必ず必要な経費	
衣食住生活費	31,900
借金の返済	301,100
大型生活必需品の購入費	
車の購入等	417,800
その他の生活費	
光熱水費	75,300
家の修繕費	6,100
自治会費等	3,200
合計	835,400

借金の状況 (平成13年度決算)

借金の総額	3,633,000 円	地方債 現在高	72 億 6,648 万 6 千円
-------	-------------	---------	-------------------

どうして財政が厳しくなってきたの？ 国からの交付金の減少

国も厳しい財政状況となっているため、地方自治体もその影響を受けています。(※図1参照)

平成13年度には地方交付税制度の改革(見直し)が行われ、今後、地方自治体への交付金は次第に少なくなっていく見込みです。

「税金」の伸び悩み

不況の影響でサラリーマンの所得が少なくなったり、商工業を打撃し利益が上がらなくなったりなど、住民税・法人税などの町税収入(※図2参照)は伸び悩み、横ばい状態が続いています。

「町債」(町の借金)の増大

本町は、平成2年頃から人口が急増しました。

大都市・札幌市に隣接しているため、町民のニーズは社会基盤整備を強く望む傾向となりました。

下水道事業や地域コミュニティなどにかかる施設の建設などです。

また近年、介護保険制度導入時期には、新たな施設を建てましたが、必要不可欠な施設づくりを進めるためには、税金や国からの交付金だけではまかないきれませんでしたので、「町債」に依存せざるを得ませんでした。(※図3参照)

その結果、5年後や10年後から返済を強いられる「公債費」の負担が高くなることが原因の一つです。

つまり、歳入全体に占める借金を返すお金の比率が高くなり、自由にお金が使えなくなってしまう「財政の硬化」と呼ばれる現象が続いているのです。

町の「貯金」の内訳

次の3種類です。(※図4参照)

①「財政調整基金」 経済情勢の著しい変動などにより、財源が著しく不足する場合などに対応するための積立金。

②「減債基金」 計画的な公債費償還のための積立金。

③「特定目的基金」 特定の目的のためでなければ取り崩しできない積立金。
※一般的な財源として使えるのは①と②のみですが、底を突きそうな状況です。

「財政の硬化」の改善に向けて

財政の硬化を改善するためには、なんとと言っても「借金を増やさないと」ですが、町民の生活に必要な施策は行わなければなりません。

「今、最も必要とされる事は何か？」を常に考えながら、事務事業の見直しを含めて、行財政改革の取り組みを強力に進め、町民一人ひとりのご理解・ご協力をいただきながら、この厳しい状況をできるだけ早期に改善できるように努力していきます。

町長の日記

14年12月13日(金)

12月定例議会が今日で終わった。議員在任36年のキャリア議員はじめ7人の有力議員からいい質問が続いた。

その間、ずっと考えていたが、私が町議になった時は町の予算は11億円だったが30年間毎年、右肩上がりに増えて今は約180億円だから歴代の町長は少しずつでも新しい仕事が出来たのに、私が町長になったと同時に予算がどんどん減る時代になった。

13年前52歳の私が町長に出たいと云ったら、周りから一回待てと止められ、次に出馬したら落選、今回やっと当選させて戴いたのに財政事情は全く予想外の事態である。

これはなんと云う事だろうか？たんなる不運だけだろうか？

人にはふさわしい「試練」が与えられるものだ。と誰かが言っていたことを思い出して、昨晚も、答弁内容をもう一度一人で練り乍ら、ふと、壁に貼ってある選挙中の写真を眺めていたら「今を乗り切れるのはあなただけなのヨ」と云ってくれているように感じてすっかり眠気が覚めてしまった。

これは厳しい選挙の洗礼を受けたものだけが感じ取れる喜びに違いない。

国の15年度の予算内示があるので年末にまた東京へ行く。新年度、当別は、10億単位で予算が減ると思うから、3月の議会は今迄にない想像以上の激論になると思う。それでも将来の「美しいまち」を夢見て頑張りたい。

四日間の議会中、毎日田中さんのノーベル賞授賞式の微笑ましいニュースを見ながら、田中さんも苦労を楽しんでいたのだろうなァと思いつつも、奥さんの苦労を察し、8月のストックホルムの私たちの旅を思い出した。街はもう今年の真新しいカーディガンをまとっている。

当別町長衆亭後考

図1)

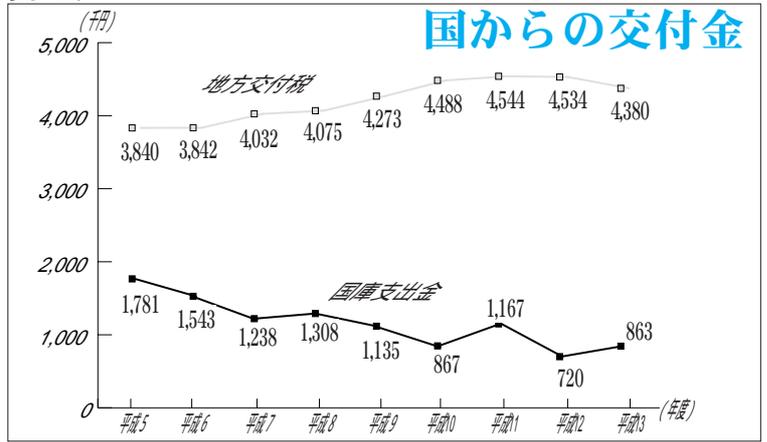


図2)



図3)

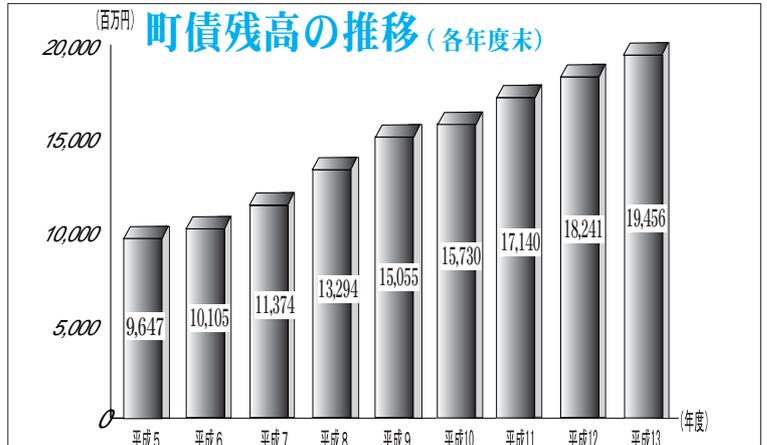


図4)

